

書籍企画書

■書籍タイトル（案）

「2020年東京オリンピックが開催中止になる50の理由」

サブタイトル：

誰よりも東京を愛している都議会議員が未来の東京へおくる渾身のメッセージ！！

■企画意図

エンブレムの盗用疑惑や競技場の予算見直しなど、一部では「招致自体が失敗」というネガティブ意見すら噴出している2020年東京オリンピック・パラリンピック。開催が迫るにつれ、更なるトラブルが予想され、開催中止の可能性すら否定できません。

そこで、「誰よりも東京オリンピックを楽しみにしている男」と公言してはばからない東京都議会議員の音喜多駿（32）が、絶対に東京オリンピックを開催するために、開催中止の火種になりそうな懸念事項をすべて洗い出し、改善提案をします。

これは、単なる政策提言やトラブル予測ではありません。

東京で生まれ東京で育ち、心から東京オリンピックを待ち望んでいる男が綴る未来の東京へのラブレターなのです。

■執筆者

音喜多駿（おときたしゅん）東京都議会議員（北区選出）／北区出身 32歳
1983年生まれ。早稲田大学政治経済学部を卒業後、LVMH モエヘネシー・ルイヴィトングループで7年間のビジネス経験を経て、2013年の東京都議会議員選挙にて初当選。現在東京都議会議員一期目。ネットを中心に積極的な情報発信を行い、その公式HPのアクセス数は単独で自民党公式HPを上回るほど。日本初の「ブロガー議員」として、都政の専門家としてメディア出演多数。

■本文イメージ

※東京オリンピックが中止になるリスクをはらんだ問題を50項目に渡り論じます。

「中止理由その(1) 異なる宗教の受け入れ環境」

懸念事項の一つに、多様な人種・宗教を受け入れる環境整備があります。特に心配されるのが、世界人口の3割とも言われるムスリム（イスラム教徒）への対応です。「あるムスリム国からは勲章もいただいている」と豪語する舛添知事をいただく東京都ですから、準備は万端！…と言いたいところですが、その実態としては訪日ムスリム数が年を追うごとに増加しているのに対し、ムスリムが礼拝するための施設や、彼らが食べる「ハラール料理」を提供するインフラが、ほとんど整っていないのが実情です。

(中略) ムスリムへの理解を促進し受け入れ環境を整えることは、テロを防止することにもつながりますが、裏を返せばそれが不十分であれば、東京都は国際イベントの開催時に大きなリスクを抱えることになるのです。

■その他の項目案

(2) 新エンブレム選考のこじれ (3) 都心の空き家・老朽マンション対策 (4) 区で異なるLGBT対応 (5) 停滞する心のバリアフリー (6) 下町の少子高齢化 (7) 赤字の権化シルバーパス (8) 歌舞伎町の再浄化 (9) 弁当路上販売の厳罰化 (10) 国連も注視する児童ポルノ対策 (11) あいまいな民泊ルール (12) 築地から豊洲への市場移転 (13) 受動喫煙対策のミス (14) 東京湾の水質問題 (15) 特定地域に偏る子どもの貧困 (16) 進まないWi-Fi環境整備 (17) 無計画な新国立競技場 (18) 知事の都市外交 (19) 先の見えないエネルギー対策 (20) 都庁と五輪組織委の癒着 (21) 大物都議のビール券配布汚職 (22) 非公開だらけの審議会 (23) 交番のIT丸腰 (24) 他人事なテロ対策 (25) 都議会の根強い性差別

～など東京に関する項目50個に言及します。

■執筆者にまつわるデータ

▼「13296」

2013年の都議会議員選挙にて、初挑戦ながら13296票を獲得し当選。

議員活動前の北区内だけで、13000人からの支持を得ていました。

現在、東京全体で活動し3年目なので、更なる支持（≒書籍の購入）が予想されます。

▼「300万」

10年に渡りブログを書いてきた音喜多氏は、議員になった現在も積極的にブログで情報発信を行っており、政治経済から30代男性目線の雑談まで幅広い話題が人気を博し、ブログの年間PVは300万に届くほど。ちなみに、11月の結婚発表記事は、外部サ

イトも含めると1日で10万PV以上にものぼりました。書籍出版を望む声も多数寄せられています。

▼「3022人」

音喜多氏のフェイスブックでのともだちは、3022人（さらに、フォロワーは5000人以上）。これは、実際に面識がある知人だけなので、ブログのファンや街頭でしか話さない支持者などは含まれていません。SNSを積極活用する次世代の政治家として培った人脈を活用すれば、コスト0円で多くの消費者にリーチすることが可能です。